

発見! /



# おごり遺産

## モグラ打ち

小正月の早朝に行われる「モグラ打ち」。どのような行事なのか、どのような意味があるのか、知っていますか？



モグラ打ちの様子

一月十四日の早朝に「パーン」という音が聞こえたことはありませんか。これは棒で地面を叩いてまわる「モグラ打ち」という伝統行事です。  
モグラ打ちこしょうがっは小正月こしょうがっの頃（多くは一月十四日）に行われ、「十四日のモグラ打ち、軒だれ、こきだれ、こき回せ」と掛け声をかけながら、長さ三メートルほどの棒（竹の先を折り曲げ、その部分をワラで包んだもの）で家先の地面や畑を強く叩いて高い音を響かせ、田畑を荒らすモグラを追い払います。叩き終わった棒は、

折って柿・ミカンなどの木の枝にかけておくと、その年は実がたくさんなると言われています。（棒を折らずに立てかけるだけのところもあります）

この行事は、東日本では旧暦十月十日に「十日夜とうかみや」として、西日本では旧暦十月亥の日に「亥の子」として、九州では小正月に多く行われています。田畑を荒らす鳥やモグラなどを追い払い、作物の豊かな実りを祈るものだと考えられます。

地域によって棒の形や掛け声が異なる「モグラ打ち」。上西鯨坂の男性は、「モグラもぐらんごつ」という掛け声で行っているそうです。皆さんの地域では、どのような掛け声とともに地面を叩いているでしょうか。

一月十四日は早く起きて、外から「パーン」という高い音が聞こえてこないか、耳を澄ませてみてください。

問

文化財課

☎75・7555

## 南北朝・菊池一族歴史街道推進連絡協議会 「うきは編」九州南北朝時代の足跡をめぐる

問

埋蔵文化財調査センター

☎75-7555



10月号から紹介している、南北朝時代に活躍した菊池一族。今回は、うきは市です。

うきは市吉井町千年に、正平18年(1363)に建てられた市指定史跡の石塔「正平塔」があります。これは、その当時起きた「大保原合戦(大原合戦)」のほか、南北朝時代の戦の中で散っていった全ての犠牲者の供養を願うものです。

正平塔には、下記のような銘文が刻まれています。この銘文は法華経の一節です。建立者として刻まれている「調衆」とは、星野氏、黒木氏、川崎氏の総称で、彼らもまた、南北朝の動乱の中で多くの一族郎党が犠牲となりました。

正平塔には、長年の戦乱を経験した星野氏ら調衆の、平和への願いが込められていたのかもしれません。

(本文)

願以此功德 普及於一切  
我等與衆生 皆共成佛道

正平十八年七月十八日  
調衆各敬白

(訳)

私の功德が、この世すべてに広く行きわたり、すべての人と生きとし生けるものが、共に仏道を成すことを願います。

正平18年7月18日  
調衆各々敬って申します